

News Letter



タテジマキバガ幼虫が綴り合わせたチゴザサの葉

タテジマキバガと聞いて、「あの蛾ね」と思う人はまず居ないでしょう。「開張約10mm。頭部、胸部、前翅は黄褐色で、前翅翅脈上に黒条を持つ。」- 図鑑で特徴を記述すると、たったこれだけで終わってしまう小さな蛾は、私にとってはあこがれの種でした。

研究室に配属が決まり、最初に取りかかったのが、タテジマキバガが含まれる属の分類でした。他の構成種は夜間採集などで採れるのですが、タテジマキバガだけがどうしても採れません。インドではイネの害虫として報告もあ

り、日本でもマコモやガマにつくと記録されているので、水田なども見るのですが、どうしてもダメでした。大阪の自然史博物館や大学の所蔵標本もチェックしたのですが、そこにもほとんど標本がなく、結局見ることができたのは数個体の標本だけでした。

それが、昨年トンボの調査で訪れた放棄水田で、クサヨシやチゴザサを綴っているキバガと思われる幼虫を多数見つけました。それを飼育したところ、予想通りタテジマキバガが羽化してきました。

私が採集した環境が温暖な地域の低地のイネ科が優先する放棄水田であったこと、沖縄での低地湿地の蛾類に関

タテジマキバガ

する論文でもタテジマキバガが載っていること、これまでの寄主植物の記録から、どうやらタテジマキバガは温暖な地域の湿地が本来の生息環境のようです。

タテジマキバガは、イネ科が優先する湿地を指標する種かもしれないと思っていますが、まだまだ生息環境に関するデータが不足しています。今後、イネ科に注目してデータを蓄積していきたい、そのうちどこかに発表できたらと思っています。

蛾類はチョウに比べて生態的な知見が少なく、レッドデータブックなどに掲載されることが少ないのが現状です。その陰で指標性が高く、絶滅の危機に瀕している種も少なくないと思います。タテジマキバガはそのような種の一つかもしれません。

(大阪支社自然環境研究室・上田達也)



タテジマキバガ幼虫



タテジマキバガ蛹



タテジマキバガ成虫

目次

エッセイ	タテジマキバガ	1	研究紹介	ハチエカメムシウォンテッド	6
業務紹介	猛禽類調査におけるGIS活用方法	2	ある日のフィールドノートから	なにしてまんの?	8
マンガ	調査員物語	5			